

空き店舗を活用して多様な人々の交流の場が生まれ、商店街が活性化

NPO法人ゆめ空港

機関名	NPO法人ゆめ空港		
所在地	兵庫県赤穂市加里屋2221番地		
電話番号	0791-42-6103		
地域概要	(1)管内人口 52千人	(2)管内商店街数 5商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 42商店	
	(3)空き店舗率 38.1%	(4)大型店空き店舗数 0	
	赤穂花岳寺通商店街振興組合		
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）

- ・高齢者交流施設、障がい者工房、保育園の運営
- ・イベントの開催

総事業費 14,000千円

【事業実施内容】

1. 背景

赤穂市は、気候は温暖で雨量が少ない瀬戸内海岸気候に属しており、兵庫県の最西南部、岡山県との県境に位置している。「忠臣蔵」の「赤穂義士」のまちとしても有名であり、市内には赤穂城がそびえ、多くの歴史・文化遺産や旧城下町、旧商家の街並みが残っていることから、観光客が多く訪れる。

しかし、モータリゼーションの進展や顧客ニーズの変化に伴い、赤穂市の中心市街地はかつての賑わいを失うとともに、経営基盤の脆弱さや後継者不足から閉店する個店が多く、商店街の空洞化が深刻な問題となっている。

そのような状況を打開するため、赤穂市中心市街地商店街の1つである花岳寺通り商店街内の空き店舗の利用を考え、高齢者や障がい者、子供向けのコミュニティ施設を平成15年度に設置した。多様な人々の交流の場を提供することで商店街内に賑わいを創出するとともに、文化・情報の発信基地としての機能を担うことを目的に実施しており、平成16年度は発展的に事業を継続した。



赤穂市の位置（赤穂市役所HPより）

2. 事業内容

(1) 事業の概要

商店街の空き店舗を活用して高齢者や障がい者、児童など多様な人々が交流するコミュニティ施設を運営し、商店街と連携したイベントを開催することにより賑わいの創出を図った。

- ・事業主体者： NPO法人ゆめ空港（中心市街地の活性化と子育て支援及び障がい者自立支援を目的とする団体）
- ・施設の名称： 「ゆめ空港プラザ」
- ・所在地： 兵庫県赤穂市加里屋 2221
- ・概要： 1F 「いきいきサロン赤穂」（高齢者交流施設）91 m²
「工房そら」（障がい者のための工房）55 m²
2F 「つばさ保育園」（幼児・児童の保育室）181 m²

(2) 施設内容

① 「いきいきサロン赤穂」（高齢者交流施設）

高齢者がいつでも気楽に立ち寄り、昼食会などを通して一日を楽しむための施設である。交通手段を持たない高齢者のために希望者には送迎も行う。高齢者の趣味を生かしたサークル活動を支援している。

- ・年間サロン利用者延べ人数 991 人
（一日平均 3.3 人）
- ・昼食会（30 回開催）参加延べ人数 305 人
（一回平均 10.1 人）
- ・コンピュータ教室に 4 グループ 60 人、トールペイント教室に 20 人が参加
- ・管理者 2 名、ヘルパー 1 名



サロン内部の様子

② 「工房そら」（障がい者のための工房）

障がい者自立支援のため、クッキー製造場、焼き物工房及び販売所を運営した。工房では障がい者に対する技術指導を行ない、高齢者向けの陶芸教室も毎週行っている。

16 年度には新しい名産品として、赤穂市独自のチャレンジ赤穂推進事業による「草木染め」開発グループと共同により、赤穂特産の蓼（たで）をメインとした草木染め「蓼州（りょうしゅう）染」を開発した。

- ・障がい者 3～4 名が週 2 回工房を利用し、参加延べ人数 181 人
- ・指導者 1 名



陶芸技術指導の様子



「蓼州染」の原料となる蓼



「蓼州染」の完成品

③「つばさ保育園」(幼児・児童の保育室)

子育て支援と地域交流を目的として保育園の運営を行った。幼稚園のアフター保育、休日保育、買物や病院など急な用事に対応した一時保育を実施した。子どもと子育て世代の母親や父親に中心商店街に関心を持ってもらい、地域や高齢者、障がい者と交流する機会を設けている。

- ・年間の延べ保育園児数は通常保育が1,896人、幼稚園のアフター保育が1,020人、一時保育が343人
- ・専任保育士2名、パート保育士3名、調理師3名



保育園の様子

④ゆめ空港販売所

交流サロン内に販売所を設置し、商店街のお勧め商品や観光物産品の展示販売を行った。



ゆめ空港販売所の様子

⑤イベントの開催

毎月第一日曜日に、いきつき広場にてフリーマーケットを開催した。年間延べ出店数は136店であり、顧客数は延べ36,330人であった。

【 効 果 】

1. 「いきいきサロン赤穂」

・高齢者の来街者増加

送迎を希望する高齢者には、スタッフが一人からでも送迎を実施することにより、近隣の高齢者ばかりではなく遠方からも申し込みがあり、少しずつではあるが来訪者のエリアが広がっている。パソコン教室は市が主催する高齢者パソコン講座卒業生達の集いの場となり、お互いにサポートしながらいきいきとして活動している。高齢者の自主的な企画による施設運営は高齢者の共感を呼び、人集めに大いに寄与している。

2. 「つばさ保育園」

・個店への波及

今まで商店街に足を向けなかった若い母親層が商店街を訪れるようになり、子ども連れの親子の姿を見ることが多くなった。最近では近所の高齢者が保育園を訪れ、園児と一緒に散歩する姿も見られるようになり、世代を超えた交流が広がっている。店舗によっては子供向け商品を並べるなど商店街への波及効果が出始めている。

3. 「工房そら」

・高齢者と障害者の交流

赤穂市のチャレンジあこが推進事業の認可を取得し、特産品作りに励んでいる。サロンを訪れた高齢者が陶芸に興味を持ち、「習いたい」と申し出てくる人が最近増えている。高齢者と障がい者が協働で取り組むなど交流の場としての機能を発揮している。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

事業を運営するためには多額の事業費を要するが、現在は施設運営のための収益事業の実施が困難な状況である。現実的に行政の支援がなければ運営できない状況であり、事業費を如何に確保するかが課題である。

2. 人的体制

NPOという組織団体を理解して、ボランティアとして活動に参加する人が少ない。

3. 事業の合意形成

商店街店主の協力体制が弱く、近隣での認知度が向上しない。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

・商店街の店主や子育て世代から自主的に活動する気運が起き、自ら活動に参加する仲間づくりの推進と連携体制が必要である。

【 関 連 U R L 】

NPO法人ゆめ空港 <http://www2.memenet.or.jp/k-yume/index.htm>